

Part 2

教師のための辞書活用法

一歩進んだ“わかる”を目指す

第8回

萩澤大輝 HAGISAWA Daiki

(近畿大学特任講師)



教科書的な説明のその先へ

ある項目を教える際、本に書いてある内容をただ読み上げるような、何となく浅い解説になってしまうことはありませんか。実は例文を数多く集めて眺めるだけでも深みのある説明が可能になります。be 動詞の進行形を題材に、辞書等の用例に基づく語法研究のやり方をお示ししましょう。

手始めに標準的な参考書を見ると、「一時性を強調」する例(1)に「(いつになく)～なことをして[言って]いる」ことを表すと解説があります。

(1) Mark **is being a fool** today. He usually isn't like that. (『ジーニアス総合英語 第2版』p. 81)
進行形は時間幅を持つ概念の途中段階に注目しつつ、始まりと終わりの存在も視界の隅で意識するので、“今だけ限定”という非日常感が出るのだですね。この形が「通常と違う」という意味合いを持ちうることは次の例からも補強されます。

(2) Our neighbors **are being unusually friendly** lately. (Merriam-Webster's Advanced Learner's, s.v. be)

しかし注目すべきはこれだけではありません。収集した例を眺めて類似した文をグルーピングしていくと、次第に特徴が浮かび上がってきます(is+beingなどで例文検索しました。詳細は5月号の本欄参照)。例えば以下はいずれも「理解できない」系の表現が使われています。同様の例はいくつも見つかり、どうも偶然ではないようです。

(3) He **couldn't fathom why she was being so anxious**. (New Oxford American Dict., s.v. fathom)

(4) I **don't understand why Mr Beanie is being so nice** today — it's just not like him.

(Longman Language Activator, s.v. not be like)

次の例からも何か共通点が見えてきませんか？

(5) Reg **is being very nice** all of a sudden. What's his game? (LDOCE, s.v. game)

(6) She's **being too nice**. I wonder what she's

after. (Oxford Phrasal Verbs Dict., s.v. be)

(7) Everyone **is being very secretive** — there's something cooking. (OALD, s.v. cook)

(8) Why **is she being so nice** to everyone all of a sudden? She's obviously got a guilty conscience about something. (Longman Language Activator, s.v. have a guilty conscience)

そう、「疑問」や「推測」とも相性が良さそうですね。何か理由があるのでしょうか？

では、改めて(3)・(4)を見てみましょう。普段通りの様子なら大して気になりませんが、いつもと違う予期せぬ言動などに接すると(e.g. 普段は怖い先生が今日は妙に優しい)、自然に「不可解」という反応が生じますよね。be動詞の進行形が不可解さの文脈で出てきやすいのは、このような認知のメカニズムに基づくと考えられそうです。

そうした謎に直面すると、「あの先生、どうしたんだろ？ 何か良いことでもあったのかな」などと頭を働かせ、原因の探索を始めることでしょう。すると(5)~(8)のように疑問や推測と一緒に使われるのも納得できますね。本誌2022年12月号のQuestion Boxもこの進行形の意味のひとつに「不審・怪訝」を挙げていますが、必然性のない用法ではなく、一定の説明がつくのです。

なお同記事は(9)が自然なのかという質問が発端で、実はこれもまた別のよくある用法です。

(9) Clerk : Come on, be reasonable.

Customer: I **am being reasonable** [...]

安藤貞雄は言われるまでもなく現にそうしていると反論する表現だと指摘(10)。プロセスの始まりを意識して、もうやってるよと伝えるわけです。

(10) 'Emil, **don't discuss this with anyone**,' Elizabeth warned. Emil Joeppli nodded. 'I won't, Miss Roffe. I'm working alone. I'm **being very careful**.' (Sheldon, Bloodline)

(『現代英文法講義』p. 124)

次例も参照するとパターンが見えてきますね。

(11) 'The path is icy. Don't slip.' 'Don't worry. I'm **being very careful**.' (English Grammar in Use, 5th edition, Unit 4, p. 8)

用例は雄弁に語ります。本記事を振り返り、形容詞の直前にも特徴がないか調べてみてください。

* (5) の下線部は「どういうつもりだろう」、
(7) の下線部は「何か企んでるな」の意。